令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大谷場小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	自分の考えを伝え、相手の考えを受け止める力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって主体的に相手に伝えられるような機会を多く取り入れた教育実践の共有【各学期末】 ・児童ががのびのびと安心して学習に取り組む環境をつくるために、自分の思いや考えを表現する活動の充実を図るとともに、互いの思いや考えを認め合う活動を取り入れた授業実践【各単元の中で1回以上】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語の「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題や、算数の「全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く」問題に課題が見られた。これらの記述式問題において無回答率が全国の平均を上回っていた。 ・一方で、児童生徒質問調査の「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の肯定的な回答割合が、全国と比べて高かった。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・児童は安心できる学級風土の中で、他者との対話を通して自分の思考を柔軟に広げ、深める力を備えていることが考えられる。 ・話し合いによって豊かになった頭の中のアイデアを、テストという制約のある中で、条件（字数、指定語句、資料の引用など）に合わせて「自分一人の力で文章として出力する段階」にあると推測され、思考力は育っているものの、それを自力で記述へと変換するスキルや経験の不足から、手が止まってしまっている実態がうかがえる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	・2つの学力向上策を実施することができている。 ・1学期は社会科の研究授業を行い、全教員で参観し協議を行った。協働的な学びの実現のためには、自分の考えが不可欠であること、共通の問題を土台とした意見の対立の場面が必要であることを指導いただいた。 ・2学期以降も授業改善を図っていく。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）